

金 栗 四 三 年 譜

年	西暦	月	日	事 項	満年齢
明治24	1891	8	20	玉名郡春富村（現和水町）に父信彦・母シエの間に生まれる	0
明治30	1897	4		春富村吉地尋常小学校入学	5
明治34	1901	4		玉名北高等小学校入学 往復12キロ通学	9
明治38	1905	3	4	父信彦病死（56歳）	13
		4		熊本県立玉名中学校（現県立玉名高等学校）進学、特待生を命ず	
明治43	1910			東京高等師範学校（現筑波大学）進学、校長嘉納治五郎 春の長距離競走（12キロ）25番、秋の長距離競走（24キロ）3番	18
明治44	1911			徒歩部に入部	19
		11	19	国際オリンピック大会選手予選会で世界記録達成 2時間32分45秒	20
明治45	1912	7	14	第5回オリンピックストックホルム大会マラソンに日本人初の出場 暑さのため26キロ過ぎで棄権	
大正2	1913			千葉県館山北条海岸で暑中トレーニング 東京高等師範学校最高学年、徒歩部長となる	21
		11	2	第1回陸上競技大会で世界記録達成 2時間31分28秒	22
大正3	1914	3	15	東京高等師範学校地理科卒業、研究科へ	
		4	10	玉名郡小田村池部家への養子の話まとまる、スヤと結婚 全国の師範学校をめぐるマラソンを普及	
		11	23	第2回陸上競技大会で世界記録達成 2時間19分20秒3	23
大正4	1915	5		第2回極東選手権競技大会(上海)に参加	24
		11	21	第3回陸上競技大会で優勝、三連覇	
		秋		大日本体育協会から功労賞	
大正5	1916			第6回オリンピックベルリン大会、第一次世界大戦のため中止	
大正6	1917			4月27日～29日 日本初の駅伝関東記念東海道五十三次駅伝徒歩競走を企画 アンカーをつとめ優勝	25
		4	29	大日本体育協会から功労賞	
		7	22	第2回富士登山マラソン競走 高地トレーニング始める	
		10	10	神奈川県師範学校赴任（担当科目地理）	26
大正7	1918	4	10	東京市私立独逸学協会中学校に移る	
大正8	1919			7月22日～8月10日 下関一東京間1200キロを20日間で走破、秋葉裕之と	
		11	23	日光一東京間130キロ20時間で完走 金栗足袋商標登録、売り出す	28
大正9	1920	2	14	第1回東京箱根間往復駅伝競走を企画	

		3	31	東京市私立独逸学協会中学校退職	
		8	22	第7回オリンピックアントワープ大会マラソン出場 16位	29
大正10	1921	1	10	東京府女子師範学校奉職(現東京学芸大学)	
		6	18	全国マラソン連盟設立 初代会長となる	
		10	31	日本初女子テニス大会開催	30
大正11	1922			8月3日～26日 樺太ー東京間を20日間で走破、秋葉裕之と	31
		11	12	第1回女子連合競技大会	
大正12	1923			関東女学校体育連盟結成	
大正13	1924	7	13	第8回オリンピックパリ大会マラソン出場、落伍。	32
				第一戦から引退	
		11	19	東京府女子師範学校教諭、東京府立第二高等女学校(現東京都立竹早高等学校)教諭となる	33
昭和2	1927	8		第8回極東選手権大会(上海)陸上総監督	36
昭和4	1929	9	2	父親代わりだった兄実次死去	38
昭和5	1930	9	29	辞職	39
昭和6	1931			故郷へ帰る、栗本義彦と九州一周走破	
昭和11	1936	12		東京オリンピック決定、直後単身上京、日本で初のオリンピック誘致に奔走	45
				東京の私立十文字高等女学校(現 私立十文字中学・高等学校) 奉職(～16年まで)	
				スヤと6人の子供上京	
昭和13	1938	5	4	嘉納治五郎死去(IOC総会の帰途、氷川丸船内にて肺炎により死去)	
		7	16	第12回オリンピック大会返上	46
昭和16	1941	3		私立学校青葉女学校へ移る	49
昭和19	1944			夏休みから家族郷里へ帰る	
昭和20	1945	3		青葉女学校を辞める、郷里へ	53
昭和21	1946	2	15	熊本県陸上競技協会発足	
		4	1	熊本県体育協会発足、初代会長	
		5		三太郎走破駅伝開催、9月県下中等学校陸上競技大会復活	
		11	3	第1回熊本県民体育祭開催に尽力	55
昭和22	1947	1	4	東京箱根間往復駅伝競走復活	56
		4	1	熊本陸上競技協会の第2代会長に就任	
		12	7	第1回金栗賞朝日マラソン開催、のち福岡国際マラソン選手権大会	
昭和23	1948	11	1	熊本県初代教育委員長(公選制)となる ～25年まで	57
昭和24	1949	2	27	西部マラソン20キロ大会佐世保において開催	
昭和27	1952	11		高松宮杯西日本各県対抗九州一周駅伝の企画に係わる	
				熊日社会賞受賞	

昭和28	1953	4	第57回ボストンマラソン日本監督、山田敬蔵優勝（世界記録2時間18分51秒） 西日本文化賞受賞	62
昭和30	1955	10 23	秩父宮賞受賞 11 3 紫綬褒章受章	64
昭和32	1957	3 24	紫綬褒章受章を記念して第1回熊日招待マラソン(30キロ) 開催 のち金栗記念熊日30キロロードレース 11 3 熊本近代文化功労者として顕彰	65 66
昭和33	1958		朝日文化賞受賞	
昭和34	1959	5	第18回オリンピック開催地東京に決定 6 7 西部マラソン30キロ大会、第11回玉名市に定着	67
昭和35	1960	10 24	第15回国民体育祭熊本大会で、最終炬火ランナーとして走る	69
昭和37	1962	11 1	玉名市名誉市民となる	71
昭和39	1964	10 10	第18回東京オリンピック開催 11 3 勲四等旭日小授章受章	73
昭和40	1965	11 10	秋の園遊会に招かれる	74
昭和42	1967	3	3月20日～4月1日 スウェーデン五輪委員会の招きにより、55年ぶりに同国訪問 半世紀目のゴール 54年8ヵ月6日5時間32分20秒3	75
昭和44	1969	5 31	熊本県立玉名高等学校に銅像除幕	77
昭和45	1970	4 19	西部マラソン30キロ玉名大会を「金栗杯玉名30キロマラソン大会」と改称 平成8年から現在の「金栗杯玉名ハーフマラソン大会」となる。	78
昭和47	1972	1 9	熊本走ろう会発足、初代名誉会長となる	80
昭和48	1973	3 11	第1回全国壮年天草パールマラソン大会 4 玉名市陸上競技協会創立 顧問となる	81
昭和58	1983	11 13	永眠 従五位銀杯下賜	92
平成12	2000	秋	金栗四三関係資料が玉名市立歴史博物館ころろピアに寄贈される	
平成14	2002	3	企画展「マラソンの父・金栗四三～25万キロの人生～」を開催	
平成24	2012	6	「ストックホルムオリンピック出場から100年 金栗四三展」を開催	
平成30	2018	11	新玉名駅前に玉名高校同窓会が銅像を建立	